

女性活躍へ日米官民で連携強化 訪米の森元少子化相

2016/5/9 12:05 | 日本経済新聞 電子版

【ワシントン＝吉野直也】森雅子・元少子化相は米ワシントンで日本経済新聞の取材に応じ、女性が活躍できる社会づくりを進めるため、日米の官民で連携を強化する考えを示した。「日米の官民の女性同士が顔を合わせて交流を活発にすることで、相互理解が深まり、女性が活躍できる社会づくりに様々な知恵が生まれてくる」と訴えた。

訪米中、ボストンのハーバード大やニューヨークの国連、ワシントンのジョージタウン大、カリフォルニアのスタンフォード大で開いた会合に出席し、講演した。森氏は「安倍晋三首相はウーマノミクスを経済成長戦略の中核に位置付けている」と述べ、女性活用を政権の経済政策として取り組んでいる実情を説明した。



森雅子・元少子化相

「会合で日本の女性の就業率が米国を上回ったことを明らかにすると、米国側から多くの質問を受けた」と指摘。「これまでの固定概念を打ち破ったところに女性が活躍できるエネルギーが生まれてきている」と強調した。その具体例として東京電力福島第1原子力発電所事故からの復興を挙げた。

「災害対策は男性の仕事と思われていたが、福島の復興で日常生活における女性の視点が役立った。想定外の災害が起き、常識が崩れた中で、女性の指導力が見直された」と力説した。森氏は日米だけでなく、欧州やアジアなど官民の女性交流の流れを加速する方針も主張した。